

## 小学校体育における授業改善の試行 — 4年生表現運動の授業から —

鈴木 一成

愛知教育大学附属名古屋小学校

### A Trial of the Class Improvement in the Elementary School Physical Education — A Case of the Fourth Grade Dance —

Kazunari SUZUKI

Nagoya Primary School Attached to Aichi University of Education.

**Key words:** 小学校体育授業, 表現運動, 授業改善

#### 1. はじめに

本稿の主題は筆者が計画・実践した体育授業について、その感想を「子どもから聞く」ことを手がかりに、表現運動の授業改善を試行することである。

上記の目的は以下の二つの問題意識による。

一つは、平成20年に改訂された学習指導要領を具現化する授業をどのように考えたらよいかということである。とりわけ、表現運動は、「何をどのように教えたらよいか難しい」「恥ずかしがって苦手意識がある」という課題がある<sup>1)</sup>。

前者の「何をどのように教えたらよいか」という課題は、表現運動の特性に関わると考える。それは、表現やリズムダンスのように自由なダンスは、「何を」と「どのように」という二つの内容で構成され、いわゆる「違いがあるから面白い」のが特性で、その学習は拡散（即興）と集中（作品）を円環的に繰り返しながら発展するといえるからである<sup>2)</sup>。だからこそ、「何を」「どのように」を明確にした授業を提案していくことが求められていると考える。

後者の「恥ずかしがって苦手意識がある」という課題は、表現運動の根幹にかかわるものと考え

る。表現運動は、自己の心身を解放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である<sup>3)</sup>。「心身の解放」「リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ること」をどうしたら実現できるのであろうか。学習指導要領の実施段階で見えてきた問題として、「表現・創作ダンスは自由で、リズムダンスは形のある踊り」という特性の理解不足がある<sup>4)</sup>。実際、筆者（教職11年）は、表現運動を運動会のダンスに置き換え、強制的にリズムに合わせなければならない授業をしてきてしまったという反省がある。

ダンス学習は、「今、ここ」から始まって常に生み出していく学習が原点であり、人と人との関わり、運動との関わりを生み出していく学習の典型でもある<sup>5)</sup>。このことは、筆者が2008年8月に村田の実技講義を受けて痛烈に感じたことである。他の受講者同様、筆者も「村田マジックにかかってつい夢中で踊ってしまった」という感想もっている。どうしたら「場の空気を読み、本気のツボを探し当てる」<sup>6)</sup>達人の授業の域にいくことができるのであろうか。どうしたら表現運動のもつ「心身の解放」、「身体によるゆたかなコミュ

ニケーション」の可能性を拓き、「今、ここ」から創り出す授業をすることができるであろうか<sup>7)</sup>。

現在、筆者は4年生の担任である。中学年では「表現」と「リズムダンス」を内容として、身近な題材やロックやサンバなどのリズムから多様な動きを即興的に踊る体験を大切にしていけることがあげられている<sup>8)</sup>。4年生表現運動の実践を通じて、表現運動の授業をどのように創っていくのか考えたい。

もう一つは、教師は授業改善をどのように行っていたらよいかということである。通常、授業改善は、授業成果を推定することから始まる。そして、その推定をもとに授業を変えたい。しかし、授業成果の表記が複雑で難解であれば教師の日常から遠ざかってしまう。そこで、教師が日常の中で取り組むことができ、簡便で、子どもの現実を把握する試みで授業改善をしていきたいと考える。

授業成果を表す方法としては、体育の授業研究では、教師の解釈や子どもの感想をまとめたものから、態度測定など客観的な情報を提供するものもある<sup>9)</sup>。これらはどれも子どもの内的な状況を把握、推定することが期待できる。

例えば、高田は長年にわたる多くの子どもの感想文の集積から、日常の実践の中で意図的な授業改善を試みている<sup>10)</sup>。これは、「授業はもともと児童生徒のためにあるもの、彼等が喜ばないことにはよい授業とはいえない、よい授業とは、児童生徒がよい授業といってくれるものに限る」という発想から、子どもから聞くという授業改善の視点と方法で近づいていったものである。感想文の集積から授業改善の示唆を得る方法は、教師が日常の中で取り組むことができるため、本稿もこの点に着目した。

これに対して高橋らは、この高田の方法を、簡便で有効であり、経験的な考え方にもとづくものであるとしつつ、事実分析によって開発されたものではないという点から、形成的授業評価を考案した<sup>9)</sup>。しかし、これは「選択肢をつけたアンケート形式の調査では、実際は子どもが意識していなかったようなことでも強引に聞き出し、そしてそれが子どもの意識に大きなウエイトを占めてい

るかのような調査結果として示されるのに対し、無限定の自由記述の感想文では、子どもが実際に感じていることだけを書くので、統計的に処理しにくい、子どもたちが感じていることの実際の姿を知るには、かえってこの方法の方が正確であるとも言える」という指摘もある<sup>11)</sup>。

以上をふまえ、本稿では、実践に対して直接的に機能する簡便な方法という立場で、感想文を解釈する質的な方法に着目する<sup>12) 13) 14)</sup>。これを補完する立場で測定的な手法を併用することで、授業者の解釈だけではなく、一定の枠組として構成された授業改善の方法になるものと考えている。

他に、授業改善の示唆は授業研究会などでも得られる。学校現場の授業研究会は、公開した授業に対して参観者が協議し合い、意見が出され、互いの経験や知識を共有する場となっている。こうした取り組みも授業改善の示唆を得ることが可能であり、学校現場では盛んである。それは非日常的であるので、本稿の問題とは分けて考えることにしたい。

## 2. 目的

本研究の目的は表現運動の授業を受けた子どもから提出されたデータを手がかりに、授業改善の試行をしていくことである。

子どもの提出するデータは感想文と形成的授業評価<sup>9)</sup>の回答である。

## 3. 方法

### 3-1. 研究の方法の枠組み

本研究では、授業改善の具体的な示唆を提供する意図がある。本研究の分析結果が授業改善に機能するためには、解釈の方法が授業者にとって難解ではなく、授業を計画する際に具体的な情報となるようにする必要がある。そこで、具体性のある個別化したアイデアを質的な情報として提供したいと考える。

毎時間の感想文（以下、「毎回の感想文」とする）は質的なデータであり、これを分析する際に主観を全く排除することはしない。授業は再現可能性のない一回性の事象である。授業者が自らの授業を分析し、そこから授業改善の示唆を得よう

とする場合は、主観は分析の一部に含まれると考える。これは、稲垣らの「反省的实践」の授業研究と同じ立場をとることとする<sup>15)</sup>。すなわち、毎回の感想文の内容について、筆者（現職・教職11年）の経験を用いた思考から、授業改善を図るものとする。

ただし、多様な意味の解釈を成り立たせることで、主観が先走り、思いつきで独善的な判断結果を示すことになってはならない。私たちが何らかの文章を読んだときに、文脈を理解する手がかりとして、共通のキーワードをカテゴリー化して関連させる。このキーワードとカテゴリー化による認知を基盤にして、感想文をコーディングする条件を示す。さらに、形成的授業評価を併用して分析することで、質的な方法と量的な方法が補完的に機能することを期待したい。

また、単元前と単元後の感想文（以下、「単元前後の感想文」）を比較して、総括的な自由記述の分析を行う。単元前後の感想文の記述を分類する方法はKJ法<sup>16)</sup>の分類方法を参考にしながら、筆者と体育を専門とする教員2名（教職経験19年・15年）で記述内容の類型化を行う。不一致のケースは協議して一致させる。

### 3-2. 対象授業

分析の対象授業は表現運動である。表1に示す。

### 3-3 分析の方法

#### 3-3-1 感想文と形成的授業評価の併用による分析 [感想文の分析]

毎回の感想文の記述は毎時間、授業の終盤で完了し、収集は授業後とした。

毎回の感想文を次の手続きによって、コーディングし、該当する記述を抽出する。その件数や特徴的な内容を検討し、授業成果を推定する。

- ①格助詞のうち、「は」、「が」で示してある記述に着目し、言及の対象を特定する。
- ②「楽」「良」「面白」に変換可能な語を含む文を抽出する<sup>12)</sup>。これは好意的な態度形成を意味する情緒的な言葉を象徴するものととらえることができる。また、これに対して、「楽しくなかった」といった否定的な文脈で語られている記述を推定し、抽出する。
- ③文章の述部に着目し、「できた。」「分かった。」

など達成、理解の意味で考えられる記述を抽出する。また、それぞれに「不・非」を冠し、反対の意味で解釈できる内容も抽出する。

- ④その他、「～やってみよう。」「～したい。」といった欲求的な願望の表現に着目し、これを子どもの関心として抽出する。

上記の手続きによる対象は第1回から第5回の授業の感想である。

#### [形成的授業評価]

形成的授業評価は授業終盤に、毎回の感想文の記述と合わせて行った。

形成的授業評価は「1感動体験」「2技能の伸び」「3新しい発見」「4精一杯の運動」「5楽しさ体験」「6自主的学習」「7めあてをもった学習」「8なかよく学習」「9協力的学習」の9項目からなり、3段階（はい・どちらでもない・いいえ）の質問紙法である。いずれの項目も3点満点となる。

なお、「1感動体験」「2技能の伸び」「3新しい発見」は「成果」,「4精一杯の運動」「5楽しさ体験」は「関心・意欲」,「6自主的学習」「7めあてをもった学習」は「学び方」,「8なかよく学習」「9協力的学習」は「協力」のカテゴリーとされる。9項目の平均が総合点となる。総合点は3点満点である。

この毎回の感想文と形成的授業評価の併用による分析で、授業の成果を推定し、授業改善を考える。**3-3-2 「まわりが気になる度」と単元前後の感想文による分析**

#### [まわりが気になる度]

「まわりが気になる度」の記述は、単元前後の感想文の記述と並行して行わせ、授業終盤で完了し、収集は授業後とした。「まわりが気になる度」として、全く気にならないを0%, 気になるを100%として、数値を記述させ、自己の心身を解放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきっているかの手がかりとする<sup>11)</sup>。

#### [単元前後の感想文の分析]

単元前は業前、単元後は業間に、「表現運動で思ったこと」というテーマで作文を課し、その記述内容を対象として、KJ法<sup>16)</sup>の分類方法を参考にしながら記述内容の類型化を行う。そして、これをまとめ、表題をつけ、単元前後で比較する。

表1 対象授業

(1) 単元名 表現運動 (5時間扱い, 平成21年12月実施, 授業者 筆者)

(2) 学習者 A小学校4年生 男子19名 女子19名

(3) 単元目標

- 進んで表したい感じを表現したり, リズムダンスに取り組んだりして, 友達と仲よく練習したり発表したり, 場の安全に気を付けたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- リズムに乗る動きを見付けたり, 自分の踊りに取り入れたりすることができる。(思考・判断)
- 軽快なリズムに乗って全身で踊ったりすることができる。(技能)

(4) 単元計画

時間	月日	ねらい	内 容
1	12月7日 (月)	○ イメージになりきって自由に踊る。  ○ リズムに同調して全身でリズムをとらえてその場で弾んだ踊ったり, スキップしたりして移動を加えて踊る。	①ミラーリング ②ハートキャッチボール ③ハンド・パワー ④ボディ・パーカッション ⑤リズムをとる (曲;ボルノブラフティ「アゲハ喋」) ⑥ノリノリダンス(曲;NOB SUMMER「Can't take my eyes off you」)
2	12月9日 (水)	○ 題材の特徴をとらえて動きに差をつけて即興的に踊る。  ○ 1拍毎にアクセントがある強いビートを「縦ノリ」のリズムで踊る。	①ミラーリング ②ハートキャッチボール ③ハンド・パワー ④掃除機・洗濯機 ⑤仕草でリズム ⑥リズムをとる(縦ノリ) (曲;ボルノブラフティ「アゲハ喋」) ⑦ダンスバトル(曲;EXILE「Choo Choo TRAIN」)
3	12月10日 (木)	○ 題材の特徴をとらえて動きに差をつけて誇張して即興的に踊る。  ○ 後うちのリズム, 上下のダウンのリズムにアクセントをつけて, 踊る, 回る, 跳ぶの動きに変化をつけて踊る。	①ミラーリング ②ハートキャッチボール ③ハンド・パワー ④目的動作(天井から引っ張られる-切れる, 持ち上げられる-落とされる, 吸い込まれる-出される, 進ませられる-止められる) ⑤リズムをとる(後打ち, ダウン) ⑥ダンスバトル (⑤⑥の曲;EXILE「Choo Choo TRAIN」, リトル・エヴァー「ロコモーション」)
4	12月11日 (金)	○ 題材の特徴をとらえて対立する動きを組み合わせてひと流れの動きで即興的に踊る。  ○ リズムの同調したり, 後うちのリズムや上下のダウンのリズムにアクセントをつけたりして相手と対応して踊る。	①ミラーリング ②ハートキャッチボール ③ハンド・パワー ④慣習動作(歯磨き・お風呂) ⑤リズムをとる(同調, アクセント) (曲;A・RA・SHI「A・RA・SHI」) ⑥ダンスバトル(曲;EXILE「Choo Choo TRAIN」, A・RA・SHI「A・RA・SHI」)
5	12月14日 (月)	○ 題材の特徴をとらえて対立する動きを組み合わせてひと流れの動きで即興的に踊る。  ○ アクセントや変化をつけたり相手と対応したりしてリズムに乗って全身で踊る。	①ミラーリング ②ハートキャッチボール ③ハンド・パワー ④ドロウイング ⑤リズムをとる(同調, アクセント) (曲;リトル・エヴァー「ロコモーション」) ⑥ダンスバトル(曲;EXILE「Choo Choo TRAIN」)

「まわりが気になる度」は、「心身の解放」「リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ること」の度合いを示すととらえていく。数値や測定基準は児童の主観に委ねられているが、その数値の推移と記述内容から、内的な状況を把握する手がかりとする。

この「まわりが気になる度」と単元前後の感想文を併用して分析していくことで、総括的な授業の成果として検討する。

## 4 結果及び考察

### 4-1 毎回の感想文と形成的授業評価の併用による分析の結果と考察

毎回の感想文の分析結果を表2に、形成的授業評価の分析結果を図1に、それぞれ示す。

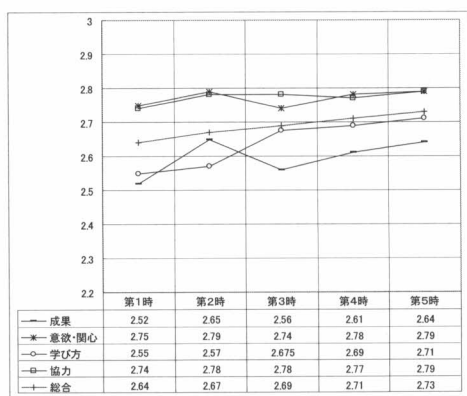


図1 形成的授業評価

第1回では「ハンドパワー」「リズムにのる」「ノリノリダンス」が言及の対象である。これを「授業のどの内容なのか」と考えれば、改善の対象となる。また、形成的授業評価の「成果」が他項目より低い。加えて、述部の「のることができなかった」から負の授業成果として考えることができる。

第2回では「リズムダンス」「洗濯機」「恥ずかしさ」「動き方」「ダンスバトル」が言及の対象である。形成的授業評価の「成果」の項目が向上した。教師は「縦ノリ」に学習内容を焦点化したからだと考えたいが、言及の対象に「縦ノリ」がないこと、達成、理解の否定的な記述「動き方が分からない」から教師と子どもとの間にずれがあると考えられる。この点について、小林は体の部位に

着目させて動き方を示している<sup>17)</sup>。しかし、部位に着目するあまり、心身の解放やリズムやイメージの世界に没入することから離れてしまうと考えると、リズムにアクセントをつけることを重点としていくことが改善の視点と考える。

第3回では「おとす」「ダンスバトル」「のること」「恥ずかしさ」「裏拍子」「みんな」が言及の対象である。特に「おとす」の20件は、教師が後ろのリズム、上下のダウンのリズムにアクセントをつけて踊ることを強調したからだと考える。しかし、「成果」の値の低下、達成、理解の否定的な記述から授業改善の示唆を得ることができる。「みんなで仲良く」「みんなと楽しくやれなかった」「みんなでノって踊りたい」など人間関係に関する記述もあり、技術指導の他に人間関係の形成に寄与する指導のあり方についても検討の余地がある。この具体策として宮本は、微妙に流れるごちない空気をさっと払拭するような言葉掛けを中学校の実践例としてあげている<sup>18)</sup>。この指導法は小学校の授業においても有効であると考えられる。

第4回では「くっつけ」「のること」「恥ずかしさ」「動き方」が言及の対象である。主な記述には「足(ひざ)でのもて」が多数ある。技能に関わる指導のポイントは、特性の中心である「リズムにのる」、つまり体幹部(おへそ)でリズムを取って踊ることをどう教えるかである<sup>4)</sup>。「体幹部(おへそ)でのること」と「体の部位でのること」との関係と、リズムにのるための指導法を検討することができる。

第5回では「のること」「恥ずかしさ」「友達の関わり」が言及の対象である。形成的授業評価の全項目は向上し、単元を通して、総合得点が右肩上がりであった。クラスをひとつの固体として考えれば、授業成果が上がったと推定できる。しかし、「恥ずかしくて歩いているだけだった」「すぐにはペアができなかった」という2件に着目すれば、特定の子どもが授業で何を学習し、何を思っていたのかを推察し、今後の指導で何が必要なのかを探る情報を与えてくれる。

日常の授業改善は教師の直感的な反省が主であるが、「毎回の感想文と形成的授業評価の併用による分析」はクラス全体と個別の両者を使い分け

表2 感想文の分析結果

授業	コーディングの別	肯・否	件数	対 象	主 な 記 述
第1回 感想の 総件数 35	「楽」「良」 「うれしい」 を含む件数	肯定	18	ハンドパワー リズムにのる	「ハンドパワーが楽しかった。」「ノリノリダンスが楽しかった。」 「リズムにのると自然に体が動いて楽しくなる。」
		否定	1	リズムにのる	「うまくリズムにのれなくて楽しくなかった。」
	達成や理解 で解釈した 件数	肯定	8	ハンドパワー リズムにのる	「ハンドパワーであやつられている時に上手にできて本当にあやつられている感じになった。」「リズムにのることができた。」
		否定	3	のること	「ノリノリダンスでのることががあまりできなかった。」
	願望の表現	—	5	ノリノリダンス	「家でお気に入りの曲を聞きながらノリノリダンスをしたい。」
第2回 感想の 総件数 33	「楽」「良」 「うれしい」 を含む件数	肯定	11	リズムダンス 洗濯機	「リズムダンスが楽しかった。」「わーと踊っておもしろかった。」「洗たく機、ぐるぐるが楽しかった。」
		否定	0	—	—
	達成や理解 で解釈した 件数	肯定	13	恥ずかしさ	「やっっていくうちに恥ずかしくなくなってきた。」
		否定	8	動き方	「どうやって動くのか分からない」「思ったより動けない」
願望の表現	—	1	ダンスバトル	「ダンスバトルはワンパターンのおどりだけじゃなくて今日の終わりに新しいダンスを考えたので今後やりたい!」	
第3回 感想の 総件数 37	「楽」「良」 「うれしい」 を含む件数	肯定	20	おとす ダンスバトル	「ダンスバトルはみんなで仲良く円になって楽しくダンスすることができてうれしかった。」「踊ると気持ちがいい。」
		否定	2	のること	「あまりみんなと楽しくやれなかった。」「疲れた。」
	達成や理解 で解釈した 件数	肯定	10	恥ずかしさ おとす	「恥ずかしさが5%減った。」「恥ずかしくなかった。」 「おとすというのは面白い動きだと思った。」
		否定	4	裏拍子、おとす	「裏拍子は結構難しかった。」「おとすは意外と難しい。」
願望の表現	—	1	みんな	「もっとロコモーションをみんなでノッて踊りたい」	
第4回 感想の 総件数 34	「楽」「良」 「うれしい」 を含む件数	肯定	14	くっつけ のること	「くっつけをやってダンスが好きになった。」 「まったく周りを気にしないでリズムにのるととてもスカッとしたいい気持ちになる」
		否定	2	のること	「膝でのってノリノリで疲れた。」「リズムにのって走り疲れた。」
	達成や理解 で解釈した 件数	肯定	15	のること	「私は足(ひざ)でのっていることを今日は初めて知った。」 「だんだんリズムののりかたが分かってきた。」
		否定	3	恥ずかしさ 動き方	「少し恥ずかしい」「ほんの少しまわりを気にしてしまう」 「どうやって動けばいいのか分からなかった。」
願望の表現	—	0	—	—	
第5回 感想の 総件数 37	「楽」「良」 「うれしい」 を含む件数	肯定	13	のること	「なんかはげちゃった。手とこしと足でリズムにのってぜんぜんはずかしくなかった、思い切ってみるといいに楽しい。」
		否定	0	—	—
	達成や理解 で解釈した 件数	肯定	18	のること	「膝で思い切りのれた。」「思い切りはしゃいだ。」
		否定	2	恥ずかしさ 友達の関わり	「はずかしくて歩いているだけだった。」 「すぐにはペアができなかった。」
願望の表現	—	4	のること	「膝と手でのった。今度は違うところでリズムにのってみたい。」	

表3 「まわりが気になる度」

児童	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
1	51	25	3	1	0
2	70	70	65	80	85
3	15	8	5	3	0
4	50	20	10	0	0
5	50	60	40	39	19
6	10	5	4.8	4.4	3
7	10	0	0	0	0
8	35	35	40	0	15
9	60	10	60	5	7
10	49	3	2	2	2
11	0	0	0	0	0
12	40	5	0	30	15
13	44	0	2	3.2	4.4
14	98	0	2	50	50
15	5	0	0	10	10
16	50	80	0	120	0
17	50	20	5.1	0.5	15
18	30	5	10	5	10
19	1	0	0	2	0
20	50	1	10	95	75
21	65	20	10	0	0
22	100	88	99	55	10
23	39.7	39.7	97.3	31.4	31.4
24	13	2	0	0.1	0
25	25	0	-10	-100	-200
26	44	0	0	3.5	3.8
27	10	0	0	28	0
28	1	0	2	0.1	0
29	3	3	3	2	1
30	78.2	53	81	47	0.3
31	0	0	0	0	0
32	45	50	10	10	25
33	100	0	0	0	0
34	50	10	10	4	0
35	0	0	0	0	0
36	15	25	3	3	3
37	0	0	0	0	0
38	5	3	2	1	1

単位%

ができ、漠然とした解釈を避ける。そこで推定した学習成果を授業改善に活かす場合、改善の対象もクラス全体または個別に向かうものとする。

4-2 「まわりが気になる度」と自由記述の併用による分析の結果と考察

「まわりが気になる度」を表3と図2，单元前後の感想文を抽出し，まとめ，表題をつけたものを表4に示す<sup>注1)</sup>。

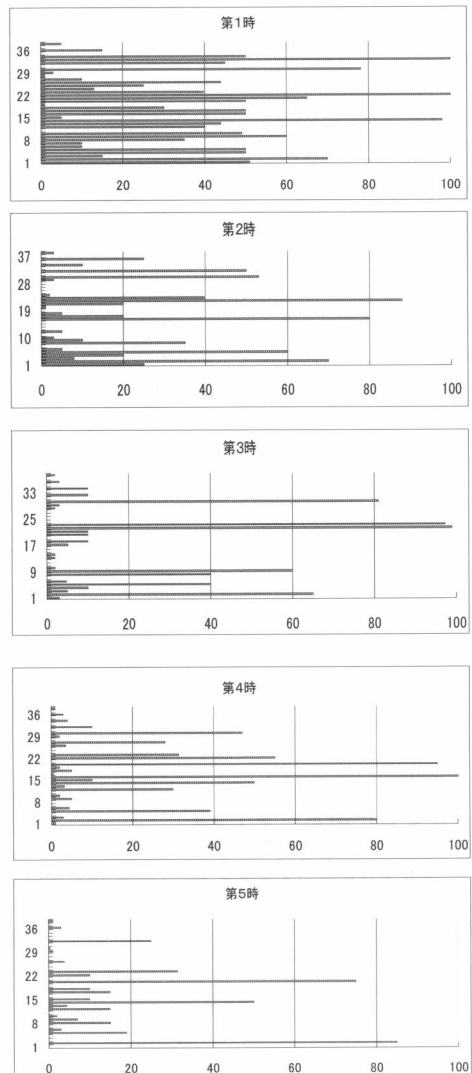


図2 「まわりが気になる度」

表4 自由記述の抽出

単 元 前	単 元 後
<p><b>【恥ずかしさ】4件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 初めは恥ずかしいけれどもできるようになると楽しい。(児童1)</li> <li>○ 学校では少し恥ずかしくてのれない。家ではのっている。(児童2)</li> <li>○ うまくできると楽しいけど、どうやって動けばいいのかわからないし、ちょっと恥ずかしい。(児童10)</li> <li>○ 曲によってみんなと同じおどりをするのは楽しいけれど、踊りが下手だからおどるのが恥ずかしい。(児童18)</li> </ul>	<p><b>【恥ずかしさの軽減】15件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 初めは恥ずかしかったけれど、踊っていくうちに恥ずかしくなくなってきた。(児童1)</li> <li>○ 自分の恥ずかし度が分かった。80%から0%とまわりが気にならなくなった。(児童4)</li> <li>○ まわりが気になる度が下がった。(児童8)</li> <li>○ 最初は(体育の授業をやる前)踊ることが恥ずかしかったけれど、あまりはずかしくなくなった。(児童10)</li> <li>○ これまでは少しは恥ずかしかったけれど、恥ずかしくなくなった。(児童9)</li> <li>○ 恥ずかしさが減った。(児童12)</li> <li>○ 初めは恥ずかしかったけれど、やっていくうちにどんどんおもしろくなってきて楽しかった。(児童13)</li> <li>○ 動き方を知り、恥ずかしさが減った。(児童14)</li> <li>○ 私にとってのリズムにのることや表現運動は、恥ずかしいものだと思っていたけれど、やってみたら、恥ずかしさがなくなってきた、少し楽しくなりました。3学期の体育もとても楽しみです。(児童22)</li> <li>○ 恥ずかしさがすごく減った気がします。落としたり(体)をリズムにのったりするのもすごく楽しかった。3学期もいろいろやりたいです。(児童26)</li> <li>○ 前よりははずかしくなくなった。(児童30)</li> <li>○ 足、肩、全身で感でおどると、恥ずかしくない。(児童33)</li> <li>○ ハートキャッチボールはいろいろな表現ができてうれしかった。おどっているうちに(動いているうちに)恥ずかしさが減った。(児童34)</li> <li>○ 恥ずかしさが減った。(児童36)</li> <li>○ 最初はリズムにのって踊るのが恥ずかしかったけれど、やってみて、はずかしさが最初よりもなくなっただけで、いっぱいリズムにのって、踊れたので恥ずかしさがなくなりました。どうやって動けばいいかわからなかったけれど、曲が流れていたりしたので、だんだん動き方が分かってきました。ただリズムにのるだけじゃなくて、曲に合わせてのるのもいいなあと思いました。家などでも曲に合わせてリズムをとったりしたいです。(児童38)</li> </ul>
<p>-----</p>	<p><b>【解放・没頭】9件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今まで、リズム運動はまわりの人を気にしてしまうので思い切り動けていなかった。今は動こうと努力することができた。これからはまわりを気にせず動きたい。(児童2)</li> <li>○ 決められたものをやるのではなかったからすごく楽しかった。(児童5)</li> <li>○ 自分でイメージしてのっているのはとても楽しかった。何もかも忘れて踊ることができた。(児童17)</li> <li>○ 最初は恥ずかしかったけれど、やっているうちにまわりを気にしなくなった。(児童19)</li> <li>○ 全く人のことは気にせず、たくさん踊れた。(児童24)</li> <li>○ 前は少し踊るのは、恥ずかしかったけど、だんだん思い切り踊れるようになって、今は恥ずかしさマイナス200%。これからも踊っていききたいです。(児童25)</li> <li>○ 最初は恥ずかしさ3%、結構恥ずかしかった。でも今は1%。楽しかった。嵐の曲も好きだし。今までの体育はダンスや大なわ、短なわなど決められた運動ばかりだったけれど、今回の体育は違った。自由におどって楽しい。(児童29)</li> <li>○ いつもよりもまわりが気にならないようになってきた。全く恥ずかしくなかった。(児童35)</li> <li>○ リズムにのっていると、そんなの照れくさいと思っていたことができるようになった。(児童37)</li> </ul>
<p><b>【リズムにのること】8件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽しい。自分ののり型を考えて面白い。(児童2)</li> <li>○ リズムにのりたい(児童4)</li> <li>○ リズムは体でのとノリノリになる。(児童8)</li> <li>○ リズムにのれて楽しいし、大好き。(児童12)</li> <li>○ リズムは大切、やってみると楽しい。(児童27)</li> <li>○ リズムにのれて体を動かすと楽しい。テンションが上がってくる。(児童28)</li> <li>○ リズムにのると、やりやすい。(児童31)</li> <li>○ 体の中にボールが入ってはずんでいるみたいでリズムにのれてすごく楽しい。(児童37)</li> </ul>	<p><b>【リズムにのること】11件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最初から8% (はずかしさ) というふうには、あまりはずかしくなかったの、最初から最後までノリノリでできた。ハート キャッチボールが楽しかった。(児童3)</li> <li>○ ぼくは、リズムにのるのが苦手だけど、リズムにのることにうまいもへたも関係ない分かった。(児童6)</li> <li>○ 体はいろいろなところでリズムにのることができる。(児童8)</li> <li>○ いろいろなリズムにのれたのでおもしろかった。(児童11)</li> <li>○ リズムにのるのが楽しくなった。(児童12)</li> <li>○ 曲が流れるとすぐに楽しくリズムにのることができて、おもしろかった。(児童13)</li> <li>○ リズムのり方がつかめた。(児童15)</li> <li>○ あたし、リズムにのる曲とのれない曲があるんだ。</li> </ul>



	<p>嵐の曲は絶対のれる自信があるんだ。(児童20)  <input type="checkbox"/> リズムにのるのは動かしたらいい。(児童27)  <input type="checkbox"/> ぼくはたくさんリズムにのった。やっぱり体育は楽しい。(児童28)  <input type="checkbox"/> 初めてやった時はリズムをとるのは難しかったけれど、だんだん慣れてきた。(児童32)</p>
<p><b>【覚えるもの・体を動かすこと】2件</b>  <input type="checkbox"/> ダンスを覚えるのは難しかった。(児童21)  <input type="checkbox"/> 体を動かしていると、体の中があたたくになって、もつとのりになってしまふ。(児童25)</p>	<p><b>【動く体】2件</b>  <input type="checkbox"/> 今は音楽を聞くすぐ体が動くようになった。(児童12)  <input type="checkbox"/> 曲が流れた瞬間に体が動き始めた。(児童35)</p>
<p><b>【苦意識・否定的な思い】5件</b>  <input type="checkbox"/> 難しい。(児童6)(児童20)  <input type="checkbox"/> 難しくてちょっと嫌だった。(児童15)  <input type="checkbox"/> やっていると、だんだん体が疲れてやることに集中できなくなる。(児童23)  <input type="checkbox"/> 体を動かしてリズムにのると楽しいけれど、あまり得意じゃない。(児童30)  <input type="checkbox"/> 普通(児童36)</p>	
<p><b>【好意的な思い】4件</b>  <input type="checkbox"/> 私は運動が苦手だから鉄棒やマット運動などはなかなかできないけど、ダンスはできそう。(児童9)  <input type="checkbox"/> リズムにのることは恥ずかしいが、たくさん踊るとは結構好きになる。(児童22)  <input type="checkbox"/> ダンスとか踊ることが好きだから私は楽しいと思う。(児童29)  <input type="checkbox"/> 恥ずかしいけれど楽しくて緊張する。ノリノリでやりたい。(児童33)</p>	<p><b>【好意的な思い】3件</b>  <input type="checkbox"/> 私にとってリズム・表現運動は、はずかしさがなくなったり、さらに友達と仲よくなれた。何でも自分から進んでできるようになった。(児童7)  <input type="checkbox"/> 他の子たちと曲にのって動いたり、いろんなところで踊ったりして踊りが好きになったし、楽しかったです。(児童18)  <input type="checkbox"/> 楽しかった。(児童21)</p>
<p><b>【みんなで合わせること】13件</b>  <input type="checkbox"/> 運動会のようにみんなで合わせると楽しい。(児童3)  <input type="checkbox"/> みんなとリズムを合わせるの難しい。(児童5)  <input type="checkbox"/> みんなで合わせると楽しい。(児童7)  <input type="checkbox"/> 動きを合わせることがすごく楽しい。(児童14)  <input type="checkbox"/> みんなで力を合わせてできるから良い。(児童16)  <input type="checkbox"/> みんなで合わせてやることは楽しいけど、みんなに合わせないとつまらない。  <input type="checkbox"/> ノリノリになる。みんなと合うと楽しい。(児童19)  <input type="checkbox"/> みんなで心を合わせて踊ると楽しい。(児童24)  <input type="checkbox"/> みんなでリズムをとるととても楽しい。(児童26)  <input type="checkbox"/> 続けてリズム運動をおどるから楽しかった。練習もみんなと合わせたり見せたりしておもしろかった。(児童32)  <input type="checkbox"/> 楽しい(みんなでおどるから)(児童34)  <input type="checkbox"/> 友達といっしょにできるから楽しい。(児童35)  <input type="checkbox"/> みんなと合わせられて、すごく楽しい。(児童36)</p>	
<p><b>【曲に合わせること】4件</b>  <input type="checkbox"/> 曲にのせてリズムをとるのが好き。(児童11)  <input type="checkbox"/> 曲にリズムをのせることが楽しい。(児童14)  <input type="checkbox"/> 曲があると楽しくてリズムにのることができる。(児童16)  <input type="checkbox"/> 曲にのって体を動かすのが楽しい。曲に合わせて踊るのも楽しい。(児童38)</p>	
<p><b>【表現運動のよさ】3件</b>  <b>【模倣】</b>  <input type="checkbox"/> 体はものにまねることができる。(児童8)  <b>【気持ち伝わること】</b>  <input type="checkbox"/> リズムのると体があつたくなる。表現をするとその気持ちが伝わったりするから楽しい。(児童13)  <input type="checkbox"/> 口を使わずにリズムにのって表現して、気持ちが伝わると楽しい。(児童18)</p>	<p><b>【表現運動のよさ】5件</b>  <b>【体力の向上】</b>  <input type="checkbox"/> 体力がついて楽しかった。(児童15)  <b>【他の運動との比較】</b>  <input type="checkbox"/> 鉄棒やマット運動は、私はなかなかできないけれど、リズム・表現運動はできないということがなく、誰でものれるからいいなと思った。(児童9)  <input type="checkbox"/> 今までにない運動をして楽しかった。(児童23)  <b>【他の運動への転移】</b>  <input type="checkbox"/> なんとなわとびもできるようになったんです。(児童11)  <b>【違う自分との出逢い】</b>  <input type="checkbox"/> 恥ずかしくなくなったときもあつた。たぶん楽しくなってきたからだと思う。いつもと違う自分にてあえてよかった。(児童16)</p>
	<p><b>【体育授業の見方】2件</b>  <input type="checkbox"/> 一言に体育といってもいろいろな体育があつた。走る跳ぶだけが体育ではないことが分かった。(児童31)  <input type="checkbox"/> リズムにのっていると、そんなの照れくさいと思っていたことができるようになった。体育学習でこういうものもあつたなんてびっくりした。(児童37)</p>

単元前の感想文は「恥ずかしさ」「リズムにのること」「覚えるもの・体を動かすこと」「苦手意識・否定的な思い」「好意的な思い」「みんなで合わせること」「曲に合わせること」「表現運動のよさ」の8種類に分類した。単元後の感想文は「恥ずかしさの軽減」「解放・没頭」「リズムにのること」「動く体」「好意的な思い」「表現運動のよさ」「体育授業の見方」の7種類に分類した。単元前と後の表題において対応しているものと対応していないものがある。対応しているものは、「恥ずかしさ」と「恥ずかしさの軽減」、「覚えるもの・体を動かすこと」と「動く体」がそれぞれ対応している。同じ表題は「リズムにのること」「好意的な思い」「表現運動のよさ」の3つである。これらは記述内容を検討することで授業成果とすることができる。また、対応していないものとしては、「苦手意識・否定的な思い」「みんなで合わせること」「曲に合わせること」が単元後の表題にはなく、新たに「解放・没頭」の表題がある。これらは、子どもから見た表現運動の特性を把握することができる。

「まわりが気になる度」はクラス全体の数値が単元を通して減少している。単元前後の感想文にあるように「みんなで合わせる」「曲に合わせる」ことを強制せずに、「恥ずかしさの軽減」を目指し、「解放・没頭」すること強調してきたからだと考える。これは、自己の心身を解放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ることに着目した成果といえる。しかし、個人に目を向ければ、2名が「まわりが気になる度」の数値が上がっている。これは、負の成果として受け取り、授業改善の示唆となる。

単元前後の感想文の多数は表現運動についての内容であるが、2件は「体育授業の見方」である。自由記述は無限定の中から記された内容を総括的な成果として解釈できる。そのため、改善の対象が表現運動に留まらず、「体育授業の見方」まで対象が広がっている。これは、授業改善が開かれたものになっていると考える。

## 5 まとめ

毎回の感想文の記述、「まわりが気になる度」

と形成的授業評価の記入は、授業終盤で完了することができ、収集については日常性で対応できた。また、単元前後の感想文も業前と業間の時間を使って行うことができた。感想文は子どもの言葉で具体性のある意味をもつので、授業者の直接的な解釈が容易である。また、子どもの内的な状況から、学習成果を推定し、授業改善することができる。

毎回の感想文と形成的授業評価の併用による分析では、毎回の感想文の言及対象から学習内容の採否について検討できる。また、述語の分類から学習成果を検討することができる。そして、形成的授業評価の得点に着目すればクラスを一つの固体として考えることができる。一方、個人の感想文に着目すれば、特定の子どもが授業で何を学習し、何を思っていたのか、どのような指導が必要なのかを探る情報としても利用できる。両者の使い分けができる分析として意味をもつ。

「まわりが気になる度」と単元前後の感想文の併用による分析では、子どもから見た運動の特性を把握することができる。とりわけ、本研究で対象とした表現運動は勝敗や技能の優劣など二極化した結果を問わない運動であり、このような授業の成果を推定する上で、利用価値があると考え。特に、自己の心身を解放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ることに着目し、これを「まわりが気になる度」の数値と読み替えることが可能であると考え。さらに、無限定の中から記された内容を総括的な成果として解釈していくことは、体育の授業一般へ向かうこともあり、授業改善のスポットが、対象授業を超える場合もある。こうした意味で授業改善が開かれたものになると考える。

教師は子どもの事実から授業のよしあしを感じるものである。そして、明日のために、今できることを探し、授業改善を図る。この連続である。本研究がそのステップとなり、さらによりよい授業改善の方法が生まれることを望む。

## 注

注1)「まわりが気になる度」は、0%から100%で数値を記述させた。しかし、マイナスをつけた児童が1人いた。これは、全く気に

ならない状態であると授業者が判断し、そのままの値を採用した。

13号. 大修館書店. 42-45

#### 引用参考文献

- 1) 高橋和子 (2008) なぜいま「ダンス必修化」なのか? 体育科教育第56巻第3号. 大修館書店. 23
- 2) 村田芳子 (2008) 表現運動・ダンスの授業で身に付けさせたい学習内容とは? 体育科教育第56巻第3号 (大修館書店). 14
- 3) 文部科学省 (2008) 学習指導要領解説体育編. 東洋館出版社. 18-19
- 4) 前掲書2). 18
- 5) 前掲書2). 15
- 6) 村田芳子 (2005) ダンスの魅力を実感できる授業を追いかけて. 体育科教育第53巻第12号. 大修館書店. 40
- 7) 前掲書2). 14
- 8) 前掲書3). 19
- 9) 高橋健夫 長谷川悦示 刈谷三郎 (1994) 体育授業の「形成的評価法」作成の試み: 子どもの授業評価の構造に着目して. 体育学研究 39. 29-37
- 10) 高田典衛 (1976) 体育授業入門. 大修館書店.
- 11) 小林 篤 (1983) 体育の授業分析. 大修館書店. 169-222
- 12) 森 勇示 (1999) 感想文の解釈による体育の授業分析. 体育科教育学研究16-2
- 13) 森 勇示 (2001) 体育教師の授業の批評に関する研究. 体育科教育学研究17-2
- 14) 森 勇示 (2003) 大学における体育実技科目の事例—感想文の解釈から授業成果を推定する—. 愛知教育大学体育学会研究報告第55号. 1-9
- 15) 稲垣忠彦・佐藤学 (1996) 授業研究入門. 岩波書店
- 16) 川喜田二郎 (1992) 発想法 (65版). 中公新書
- 17) 小林治雄 (2008) リズムと表現を楽しむ「ヒップホップダンス」の授業. 体育科教育第56巻第3号. 大修館書店. 40-43
- 18) 宮本乙女 (2008) 「初めてのダンス」指導に挑戦する学習指導過程. 体育科教育第56巻第